

「 求められる授業改善 」

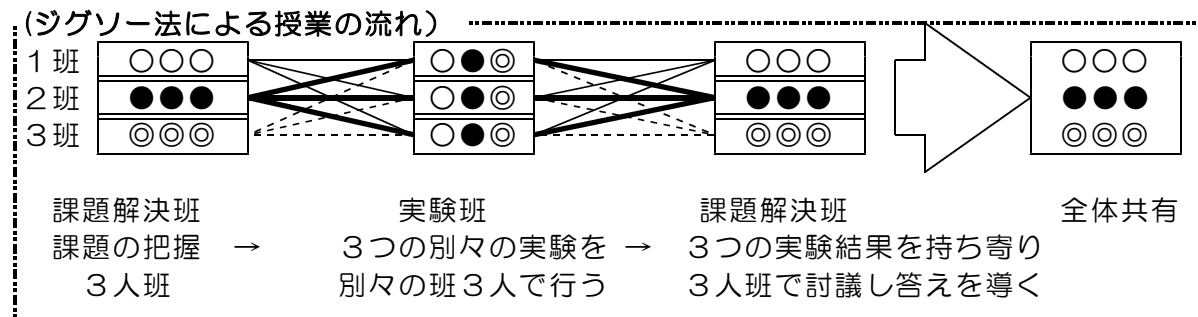
伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

中央教育審議会が昨年末、学習指導要領の改訂に向けた答申をまとめました。改訂後、2018年度には先行実施となります。今回の答申の特徴は、学習方法（どのように学ぶか）や教育課程の編成（カリキュラム・マネジメント）にまで踏み込んだことです。特に先生方の関心の高い事項の1つが「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」ではないかと思えます。大切なことは、これからの社会人として、子どもたちに求められる資質・能力を育むための有力な学習方法が「主体的・対話的で深い学び」だということです。換言すれば、学習方法そのものが目的ではないのです。「活動あって学びなし」の授業にならないようにしなければなりません。子どもに身につけさせたい力に応じて、有効な学習方法を選択することが大事だと思います。



さて、一昨年のお話ですが、その有効な学習方法を南中学校の研究発表会で参観しました。それは、2年生の理科の授業です。単元名は、『空気中の水の変化』で、本時の課題は「雲ができるしくみを説明しよう」です。学習方法としてジグソー法を取り入れた授業です。ジグソー法というのは、もともと協同学習を促すために編み出された手法です。元来は、一つの長い文章を3つに分け、それぞれの内容を3人のグループで一人ずつが受け持ち学習する。それをもち寄って互いが学習したところを出し合って、全体をジグソーパズルを解くように学ぶ手法です。

研究会では、この手法を理科の授業に上手に応用していました。本時の課題を知り、雲ができるための3つの事象に関する実験をそれぞれで行い、班でもち寄った3つの実験結果を手がかりに話し合い、論理的に雲ができる過程を組み立てる。そして最後に学級全体で雲のできるしくみを共有する授業です。生徒たちは、課題をもって実験と、班での解決策に取り組んでいました。自然現象に対する科学的な考え方を学ぶに値する理科らしい授業だったと思います。



課題の把握、実験作業と結果の把握、結果に基づく意見交換などをおして、論理的思考力、表現力、協働作業力、言語力、科学的な考え方を培うことができます。しかし、ジグソー法はAL型の授業の一手法に過ぎません。身につけさせたい資質・能力によって他にもいろいろな授業が考えられます。教材研究をおして授業改善を行い、たくさんの引き出しをもつことが、今、求められているのです。

アクティブ・ラーニング

Active Learning
主体的な 学び

の視点からの授業改善

次期学習指導要領の方向性から、アクティブ・ラーニングを用いた授業改善の視点について、具体的な考え方や指導法についてまとめています。自身の授業を振り返り、改善に役立ててください。

深い学び→課題発見力や課題解決能力をつけること

習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせながら、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、想像したりすることが大切

【課題発見力・課題解決能力育成のために】

○目的や課題を明らかにし、解決につなげる力

- ・自分で考えた筋道と目的を照らし合わせ、課題を見つけ出す場の設定
- ・様々な考えの中から、根拠をもとに課題解決に必要なことから判断する場の設定
- ・必要なことから達成するために、どのように行動すればよいかを考える場の設定

【自己表現力育成のために】

○自分の考えや思いを形にしたり、それを基にさらに考えを広げる力

- ・気づいたことやわかったことをノートやワークシートに書き出し、まとめる時間の設定
- ・考えを、今までに学んだ「見方・考え方」を用いて組み立てる時間の設定
- ・自分の考えや友だちの考えなど、いくつかの案を、目的に対してどれがよりよいかを考える場の設定



どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの視点からの 不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

平成27年8月26日 文部科学省発行
教育課程企画特別部会における論点整理について より

主体性・多様性・協働性
学びに向かう力
人間性 など

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニングの視点からの
不断の授業改善)

学習評価の充実
カリキュラム・マネジメントの充実

何を知っているか
何ができるか

個別の知識・技能

知っていること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

平成28年2月24日 文部科学省発行
アクティブ・ラーニングの視点と資質・能力に関する参考資料 より

対話的な学び→考えを広げ、深めること

多様な方法で、多様な他者と対話する場を、意図的に用意することが大切

【考えを広げ、深めるために】

○様々な情報に触れ、知識を獲得する時間の設定

- ・図書室やパソコンルームでの調べ学習など、学習に関連する事柄を自分で探し、知識を増やす場の設定
- ・朝学習や家庭での自主学習等、興味のあることから自主的に学び続ける機会の設定

○教師と子どもや、子ども同士が対話し、考えを広げ、深める時間の設定

- ・一問一答形式ではなく、多様な考えが浮かび発問の設定
- ・友だちと話し合ったり、協議したりといった考えを比べる場の設定
- ・ワークシートやホワイトボード等の教材、KJ法やワールドカフェ等の手法を用いた、目的に応じた話し合いの場の設定



主体的な学び→学習意欲・興味・関心を高めること

自分事として学習活動に取り組むようにするとともに、見通しを持って粘り強く取り組み、丁寧に自らの学びを振り返る場面を工夫することが大切

【学習意欲・興味・関心を高めるために】

○現在の社会情勢や子どもの将来、身近なことから関連させ「何のために学んでいるのか」を意識させる単元・授業の設定=学習を自分事としてとらえさせる

- ・導入の工夫やめあての提示等、子どもに「この授業では何を学ぶのか」を理解させる授業作り
- ・説明の際、子どもにとって身近で、具体的にイメージができる例の設定

○学んだことを活かした学習や活動を行い、学んだことの意味を振り返る場面の設定=自らの学びを振り返る

- ・単元を通して一貫性を持った授業計画
- ・まとめの活動で、これまでの学習で何を学び、どう役立ったかを振り返る時間の設定

○ICTや工夫された教具を用いた、わかりやすい授業づくり

- ・画像や音声、動画等を用いた「視覚的・聴覚的」にわかりやすい授業
- ・これまでの活動記録を用いた、子どもが自分の成長を感じられる授業



アクティブ・ラーニング 実施上の留意点

①新しいことをしなければならないのではなく、子どもに「つきたい力のねらい」をしっかりと持って取り組むこと


②「活動あって学びなし」とならないように留意すること 「主体的な学び、対話的な学び、深い学び」という視点から授業改善に取り組むこと

③学校での学びが社会生活とどのようにつながっているのか意味づけすることが大切

④知識や技能が明らかに足りないのに、ディベート(話し合い)をしても子どもの力はつかない 目の前の子どもの実態を踏まえた上で単元計画をしっかりと行うこと

総合教育センター図書紹介

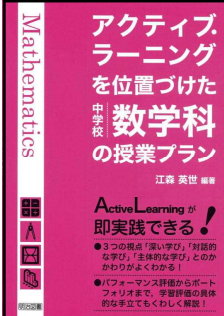
総合教育センターの図書の中から、「アクティブ・ラーニング」をテーマにした書籍について、いくつかご紹介します。



「アクティブラーニング入門」

著者：小林 昭文

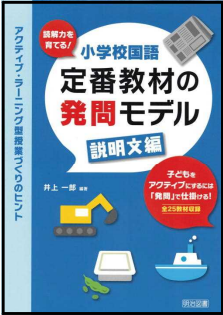
アクティブ・ラーニングの定義や効果など、基本的なことが分かります。これからアクティブ・ラーニングについて勉強してみようという方へおすすめです。



「アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校の授業プラン」

※数学科・国語科・社会科・理科
もあります
編著：江守 英世

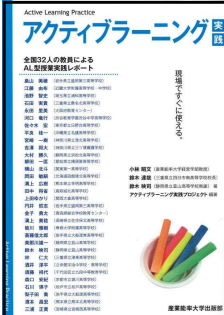
中学校の教科ごとに、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導案や授業展開例が書かれています。学んだ内容を、すぐに授業へ取り入れることができます。



「アクティブラーニング型 授業づくりのヒント 小学校国語 定番教材の発問モデル 説明文編」

※物語文編もあります
編著：井上 一郎

小学校国語の説明文を題材に、アクティブ・ラーニングの視点から、各学年の定番単元においてどのような発問ができるのかがわかる一冊となっています。



「アクティブラーニング実践」

編著：アクティブラーニング実践プロジェクト

主に中・高等学校の授業実践をもとにした指導例や解説が記載されています。また、アクティブ・ラーニングQ&Aがあり、実施にあたっての課題解決方法がわかります。

総合教育センター研修紹介

総合教育センター主催の研修から、近く実施されるものを紹介いたします。

研修名：第2回情報教育研修会

日時：平成29年2月7日(火) 15:30~16:45

場所：総合教育センター2階研修室

講師：奈良教育大学大学院 教育学研究科 教授 小柳 和喜雄 氏

内容：講演「ICT活用のマネジメントにおけるポイントについて」

全国各地の教育委員会や学校、企業にて情報教育について指導されている小柳教授から、ICTについて授業での活用事例や、学校全体で推進するポイント等についてお話しいただきます。ICT活用に興味のある方は是非ご参加ください。